



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要			
建物名称	(仮称)KPI 新工場建設工事	BEE	0.8 BEEランク B- ★★

2. 重点項目への取組み度			
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.0 /5		ふつつ
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.0 /5		ふつつ
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.4 /5		がんばろう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.5 /5		がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4点以上	ふつつ 3点以上
			がんばろう 3点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		得点	3.0	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)				
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)</p> <p>①窓仕様:SC 0.443、U=3.61W/m²K、外壁その他:U=1.00W/m²K</p> <p>④給水:H1VP、雑排水:VP、汚水排水:VP</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>特になし</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)</p> <p>⑦BPI_m=0.76</p> <p>⑨BEI_m=0.97</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)</p> <p>⑪省水型便器、自動水栓、節水コマの採用</p> <p>⑫LGS工法採用により、解体時の分別が容易</p> <p>⑬発泡剤を使用していない断熱材(グラスウール)の採用。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑮建物の見付面積比49.22%、隣棟間隔指数Rw2.261</p>	<p>Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能</p> <p>Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備</p> <p>3.2 3.2.1 ③ 昼光制御</p> <p>Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数</p> <p>2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔</p> <p>2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔</p> <p>2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔</p> <p>2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔</p> <p>2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔</p> <p>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制</p> <p>2 ⑧ 自然エネルギー利用</p> <p>3 ⑨ 設備システムの高効率化</p> <p>4 4.1 ⑩ モニタリング</p> <p>4.2 ⑩ 運用管理体制</p> <p>LR-2 1 1.1 ⑪ 節水</p> <p>1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無</p> <p>1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無</p> <p>2 2.1 2.1.1 ⑫ 材料使用量の削減</p> <p>2.1.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用</p> <p>2.1.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.1.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.1.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>2.1.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み</p> <p>3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用</p> <p>3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤</p> <p>3.2.2 ⑬ 断熱材</p> <p>3.2.3 ⑬ 冷媒</p> <p>LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮</p> <p>2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>			
	"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)			
	<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</p> <p>⑰耐震クラスA</p>	<p>Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性</p> <p>2.1.2 ⑯ 免震・制振性能</p> <p>2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備</p> <p>2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備</p> <p>2.4.3 ⑰ 電気設備</p> <p>2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法</p> <p>2.4.5 ⑰ 通信・情報設備</p>		
	"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)			
	<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)</p> <p>⑳階高3.9m以上</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)</p> <p>特になし</p>	<p>Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画</p> <p>3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり</p> <p>3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ</p> <p>Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上</p>		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)				
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上)</p> <p>特になし</p> <p>■敷地外環境対策 (⑳温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑳建物の見付面積比49.22%、隣棟間隔指数Rw2.261</p>	<p>Q-3 1 ⑳ 生物環境の保全と創出</p> <p>2 ㉒ まちなみ景観への配慮</p> <p>3 3.2 ㉓ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-3 2 2.2 ⑳ 温熱環境悪化の改善</p>			

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)KPI 新工場建設工事	階数	地上2F
建設地	伊豆の国市白山堂字下ノ田302-1、302-7、 字新川原443-7、443-8	構造	S造
用途地域	都市計画区域内、市街化調整区域	平均居住人員	62 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,600 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年8月 予定	評価の実施日	2019年12月16日
敷地面積	5,839 m ²	作成者	(株)エネ・グリーン
建築面積	2,299 m ²	確認日	2019年12月16日
延床面積	3,600 m ²	確認者	(株)エネ・グリーン



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境: 2.8
Q2 サービス性能: 3.3
Q3 室外環境(敷地内): 2.1
LR1 エネルギー: 2.8
LR2 資源・マテリアル: 3.2
LR3 敷地外環境: 3.2

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.1

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 2.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合 これはCASBEE静岡(2016版)による評価結果です。		その他 特になし
Q1 室内環境 500 lx以上1000 lx未満の照度。	Q2 サービス性能 比較的高い天井高さで充実したリフレッシュスペースの計画により従業員の快適性を高めた。耐震クラスAの機械・配管支持方法を採用し、高い信頼性をもつ。	Q3 室外環境(敷地内) 植栽を新設するだけでなく、既存緑地(調整池緑地)の保存も行い、緑化に努める。
LR1 エネルギー LED照明など、高効率設備により省エネルギー性に配慮した。	LR2 資源・マテリアル 省水型便器や自動水栓を採用し、節水への取り組みに努めた。躯体+仕上材により、解体時の分別が容易な工法を採用した。	LR3 敷地外環境 燃焼機器を使用しておらず、大気汚染物質のは発生はない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい